

第21号

# 会報 めいおんの会

発行 平成30年3月10日  
「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)  
事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522  
TEL・FAX (052) 877-1243  
発行責任者 会長 百花草 薫

“新学習指導要領を読み解く” ③ **これからの学び**

名古屋音楽大学特任教授(教職担当)  
吉川 範行

1月30日(土)に音楽教育推進協議会特別講座がヤマハ名古屋ホールで開催され、文部科学省の臼井教科調査官から「これからの音楽学習」というテーマで講演がありました。今回はその概要をお伝えします。

## 平成30年度からの小中学校移行措置について

- これまでの実践から先生たちの努力で子どもたちが変わってきた。
- 現行の成果を認めつつ、さらなる充実が求められている。
- 現行の取組と内容的に大幅な変更はないため、授業改善を進めてほしいという願いが大前提としてある。
- 現行・新のどちらで実施しても子どもにとって不利益は生じない。
  - 1 過程の重視
  - 2 指導内容と評価への反映
  - 3 創作と鑑賞の質的充実
  - 4 音楽文化の理解

## 新しい学習指導要領では…

- 教師が何をどのように教えるかという立場ではなく、子どもが何をどのように学ぶかという「子どもを主語とした授業観」を中心に、3つの柱を見つめ直すことの大切さ。
- これまで「知識・理解」としていたものを、「知識」に包含し、音楽科における「知識」を次の4つに分類。
  - 1 覚えれば分かること…自分の中から生み出すことのできない知識
  - 2 知覚を伴い聴き取れば分かること…気付きや発見により得られる知識
  - 3 感受を伴い感じ取れば分かること…イメージや感情の動きから得られる知識
  - 4 知覚・感受を支えとして学習の過程を経て分かること  
…音楽の学習を通して自分で構築する知識
- アクティブ・ラーニングが議論されたのは、「子どもが主語」ということを大切にしたいという願いからで、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」の3つの学びと読み取る必要がある。
- すてきな授業を思い浮かべてみてほしい。そこにはあの3つの学びが存在する。さらに、「主体的、対話的で深い学び」は流行ではなく不易である。
- 「音楽活動の楽しさを体験することを通して学ぶ。」→日々の取組を振り返りながら、そんな指導計画や指導実践の積み上げを！

○ 筑波大学附属小学校の3人の先生が語っておられる本「音楽の授業で大切なこと～なぜ学ぶのか？何をどのように学ぶのか？～」(東洋館出版 2017)に示された次の言葉を、いつも意識して授業に臨むことが大切ではないでしょうか。

子どもたちは共通事項が分かることがゴールなんじゃなくて、共通事項が分かった上で、音楽を楽しむところに行くのが目的なんだからさ。

○ 東京芸大の佐野靖先生が、「中学校音楽科新学習指導要領ガイドブック」(教育芸術社 2018)の中で、「イノベティブ・ティーチャー(生涯学び続け深化する教師)」という言葉を紹介しています。「私たちにとっても、子どもたちにとっても待ち遠しい音楽授業を作り上げる」ために、今回の学習指導要領を学ぶことをきっかけとして、常に授業改善に取り組み続ける教師でいたいと思っています。

## ♪♪平成30年度 総会・研修会・懇親会のご案内♪♪

【日時】 8月25日(土)10:00 総会、10:30 研修会、13:00 懇親会 【会場】 名古屋音楽大学  
【講師】 名音大講師 竹内 梓先生 【内容】『フルートの演奏とリコーダーのワークショップ』

私は昭和60年に音楽教育科を卒業し、名古屋市立の中学校に採用していただきました。部活動指導では、最初の約10年間は合唱部の指導に携わり、その後20年以上、ジャズビッグバンド部の指導に携わっています。

そもそも私は、大学在学時、副科でアルトサックスを履修し、ウインドオーケストラ部ではバリトンサックスを担当していましたが、ジャズ演奏の経験があったわけではありません。しかし、当時の学長であり、サックスの指導教官であった故岡本泰氏先生はジャズにもご堪能で、いろいろと興味深いお話を伺っていたことは一つのきっかけだったかもしれません。

ある時、同業の先輩が名古屋市立中学校でおそらく初のジャズビッグバンド部を作り、話題になりました。その当時、学校教育界ではジャズは異端であり、コンクール会場で顔をしかめられることもしばしばありました。そんな中、生徒たちが生き生きとした表情でアドリブソロも含めたジャズ演奏をしている姿に感動し、ぜひ私も指導がしたいと思い、その先輩の助言や指導を受け、現在4校目のジャズバンド顧問、そして日本学校ジャズ教育協会(JAJE)関西本部の理事と中部支部の事務局長を務めています。

平成17年、名古屋音楽大学にジャズ専攻コースが設置されました。その第1期生に私の教えた生徒が入学したことは、大きな喜びでした。その生徒は現在プロミュージシャンとして活躍しています。ジャズ専攻の講師の先生方との親交も深まり、大学で中高生対象のジャズクリニックも開催していただくようになりました。また、私どもが主催するSTUDENT JAZZ FESTIVAL 中部大会には、名古屋音楽大学から講師の先生を派遣していただいております。

今、少年少女たちをとりまく環境では、インターネットの普及と共に深刻化する少年犯罪やいじめなど、不安な話題に事欠きません。

ビッグバンドの演奏では、自由に自分の思いを演奏で主張をします。しかし、その中には一定のルールやマナーがあり、自分と違った意見に聴く耳を持ち、互いが寄り添い、豊かなハーモニーを生み出します。これらは、まさしく人間関係のあり方に大切な要素ではないかと思います。

現在日本学校ジャズ教育協会(JAJE)中部支部に加盟してビッグバンドジャズに取り組んでいる生徒たちが約600人います。他にも、吹奏楽や管弦楽、合唱や邦楽などに取り組み、音楽を愛し、生の音に親しみ、人と合わせる活動に青春を燃やしている生徒たちが多数います。

今後も、ジャズ教育を通して、音楽を愛する、豊かな心をもった生徒たちを育てていきたいと考えています。

### 【歌唱指導Q & A】① ♪声が小さい子どもには・・・♪

人との比較ではなくて、自分の中で出る一番大きな声を目標にさせたい。まずは、いい声でなくても、音の高さが合わなくてもよいので、しっかりと声が出ることを目標にさせる。

《小さい声の原因として考えられること》

◆**恥ずかしい、自信がない**・・・クラスの雰囲気や前向きの空気になるように心がける。仲間の中で間違っても大丈夫と思える状況を作り出す。

◆**技能的に大きい声の出し方が分からない**・・・①息の流れを作らせる。できるだけ太い息をお腹の底から出せるようにトレーニングし、その息の流れに乗せて声を出すようにする。地声でも裏声でも息漏れでも気にしないようにする。②息をたくさん吸うようにする。たっぷり吸ってたっぷり吐く。その息に乗せて単音で音量の確認をする。

### ＝編集後記＝

■夏の研修会のアンケートにありました、歌唱指導に関する質問の回答をまとめました。今号から順次掲載してまいります。指導の一例としてご利用ください。■小中学校では、いよいよ4月から移行措置が始まります。今一度授業を振り返り、実施に備えたいものです。吉川先生にご執筆いただいたシリーズ“新学習指導要領を読み解く”もぜひ参考にしてください。■前号で本年度の役員・参与・顧問の紹介ができませんでした。本年度も前年度と同じメンバーを務めさせていただきます。よろしくお願いたします。(ゆ)